

今回は、外科兼内視鏡外科長の佐藤佳宏医師にお話を聞いてみましょう。

Q 外科（内視鏡外科）の治療についての考え方を教えてください。

A 患者さんの病気だけでなく、生活環境などにも配慮して、元の生活に戻ることができるよう、その人に合わせた治療を心掛けています。高齢者も安心して手術を受けられるよう、開腹手術のほか、患者さんの負担が少ない鏡視下手術も行っています。

Q 鏡視下手術の利点はどういったものですか？

A 皮膚に数個の小さな穴を開けて内視鏡を使って行うため術後の痛みが少ないこと、体への負担が少ないため回復が早いこと、入院期間が短いため早く普通の生活に戻れること、手術跡がメスで皮膚を切るよりも小さいことが挙げられます。

Q 外科（内視鏡外科）では、鏡視下手術をどのような病気について行っていますか。

A 肺（部分切除）・胃・小腸・大腸・直腸・胆のう・肝

臓（部分切除）・脾臓^{ひぞう}の病気や鼠径ヘルニア^{そけい}、気胸、胆石・管内結石などで行っています。中でも大腸や鼠径ヘルニアは、ほとんどが鏡視下手術となっており、患者さんの負担が軽減されています。すい臓の腫瘍、胃の全摘、腫瘍が大きいもの、肝臓・胆道の高難度手術などは開腹して安全に手術をしています。肝細胞がんや転移性肝がんの手術などで適用のあるものは内視鏡の技術を応用しています。診療として痔核などの肛門外来も行っており、治すのが難しいと言われている直腸脱については、鏡視下手術を行っています。直腸脱とは、肛門から直腸が脱出するもので、リンゴ程度の大きさになる場合があります。手術内容は、おなかの中から腸を引っ張り上げて仙骨に固定することで肛門からの脱出を防ぐというもので、県内で腹腔鏡下直腸固定術を行っているのは当院のみです。

